

マリレジャーに関する安全情報など様々な情報をお届けします！

海の事故情報 8 月、9 月中のマリレジャーに伴う海難・人身事故の発生状況

プレジャーボートの海難

- ①【衝突】8 月 11 日、青森県六ヶ所村の沖で、漂泊して釣りをしていたプレジャーボート（長さ 4.5m、3 名乗船）と、操業を終えて帰港途中の漁船（19 トン、3 名乗船）が衝突しました。いずれも乗船者にけがはなく、漁船は自力で付近の港に入港しました。プレジャーボートは自力で帰港途中で機関が故障して航行不能となり、仲間のプレジャーボートに曳航されて付近の港に入港しました。

釣りなどのために漂泊している場合も、周囲の見張りを行い、必要に応じて他の船と衝突を避けるための動作を取る必要があります。見張りは常時・適切に！

- ②【衝突】8 月 12 日、宮城県石巻市の沖で、岸沿いに蛇行しながら並走していた 2 隻の水上オートバイ（各 1 名乗船）が操縦を誤って衝突し、内 1 隻は、付近の磯場に乗り揚げました。2 名は 1 台の水上オートバイに同乗して入港後、救急車により病院に搬送され、1 名が全身打撲等のけがをしました。

並走する時は十分
距離を取ってね！



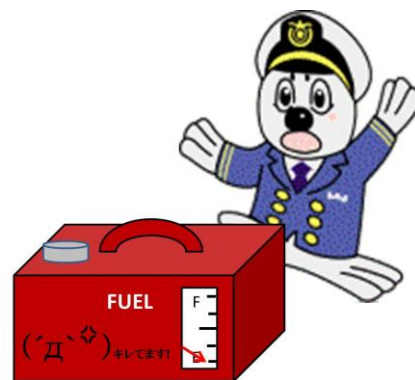
水上オートバイも海上衝突予防法などの船舶の交通ルールを守らなければなりません。並走する場合は、相手側の進路を妨げるような進路変更をしないこと、相手側の急な進路変更に対応できるよう十分な距離を保つことを心がけましょう。

- ③【運航阻害】8 月 13 日、宮城県塩釜港内で、航行中のプレジャーボート（長さ 5.6m、4 名乗船）が燃料切れのため航行できなくなりました。同船は、間もなく通報を受けて駆け付けた宮城海上保安部所属の警備救難艇により無事曳航救助されました。なお、同船は網地島付近で釣りをしていた途中でした。
- ④【機関故障】8 月 25 日、秋田県能代港付近で、漂泊しながら釣りをしていたプレジャーボート（長さ 5.38m、1 名乗船）が、移動するため船外機を起動しましたが、間もなく機関が停止して起動できなくなり、漂流して近くの防波堤の波消ブロックに乗り揚げました。乗船者は、防波堤に上がり無事でした。
- ⑤【機関故障】9 月 10 日、岩手県大船渡市の沖で、釣りをしていたプレジャーボート（長さ 3.27m、2 名乗船）が、船外機が起動できなくなり航行不能になりました。同船は、救助要請を受けて駆け付けた越喜来漁協の所属船により無事曳航救助されました。故障原因は、点火系統の部品の不具合によるものでした。

プレジャーボートの海難では、機関の故障や燃料切れ、バッテリー上がりなどにより航行できなくなる海難が多く発生しています。

自船の燃料消費量を把握し、最低でも航海予定の距離に見合う燃料＋予備の燃料を準備しましょう。

定期の点検・整備を励行して、消耗品類はメーカーが推奨する期間内に交換しましょう。発港前の点検も怠らず、燃料量、エンジンオイル量、バッテリー電圧などは、必ず点検しましょう。チェックリストはこちらから↓↓



<http://www.kaiho.mlit.go.jp/O2kanku/yorozuya/shiryousouko/hakkomaetenken.pdf>

海浜での死亡事故が発生しています！

- ①【海浜事故】8月7日、秋田県岩城町の海水浴場で、遊泳中の2名が深みにはまって溺れ、1名は付近の遊泳客に救助されましたが、1名が行方不明となりました。行方不明者は、捜索中の消防隊員により海中で発見、救助されましたが、搬送先の病院で死亡が確認されました。
- ②【海浜事故】8月16日、秋田県男鹿市の海岸で、友人と一緒に遊泳中の1名が、急に水深が深くなったため岸に戻ろうと泳いでいたところ行方不明となりました。行方不明者は、捜索中の県警ヘリにより発見され、消防隊員により救助されましたが、搬送先の病院で死亡が確認されました。
- ③【海浜事故】8月25日、青森県平内町の海水浴場で、素潜りにより魚獲りをしていた1名が行方不明となりました。行方不明者は、捜索中の県防災ヘリにより発見され、消防隊員等により救助されましたが、搬送先の病院で死亡が確認されました。
- ④【海浜事故】9月7日、福島県いわき市の漁港内岸壁で、父子で釣りをしていたところ、子供が誤って海に転落し、助けようと海に飛び込んだ父親が行方不明となりました。子供は岸壁の階段にしがみ付いているところを、付近の釣人に救助されましたが、父親は捜索中の消防隊員により海中で発見、救助されたものの、搬送先の病院で死亡が確認されました。2名ともライフジャケットを着用していませんでした。

このほかに、8月は、海水浴中に3名の方が溺れるなどして救助され、内1名の方が亡くなっています。また、プレジャーボートで曳航していたゴムボート型の遊具に乗っていた方1名が、足を打撲する怪我をしています。

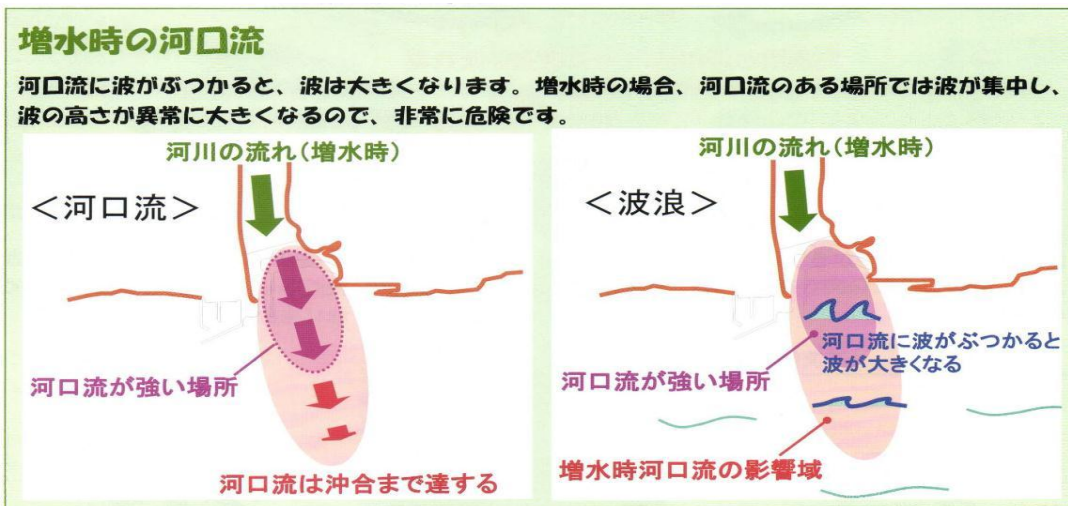
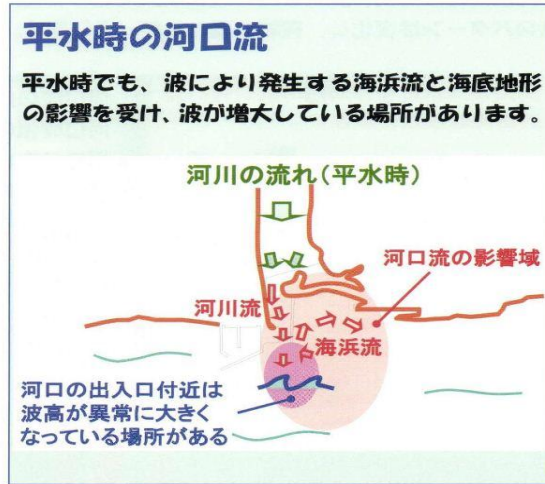
これからは本格的な釣りシーズンになりますが、磯や岸壁釣りに出かける際は、家族に予定を告げる、複数で行動、ライフジャケットを着用、防水パック入り携帯電話を常時身に付けることなど、事故に遭った場合の備えを万全に！



海の安全情報 河口流に注意！～河口域の波は異常に高くなる場所があります～

河口流とは、河口付近で発生する河川流と海浜流、潮汐流が入り混じった複雑な流れのことを言います。河口付近は、河口流の作用により波が集中して波高が大きくなることもあり、小型船舶の転覆事故が起こりやすい場所です。また、河川増水時には河口流が強くなり、同じ河口付近でも更に波高

が大きくなり、沖合まで影響することもあります。操船には十分に注意してください。



海難防止活動 釣り中の事故防止推進活動を実施します

第二管区海上保安本部では、釣り中の海中転落事故防止を目的に、11月1日から12月31日まで、釣り人への現場指導などの啓発活動を実施します。主な指導事項は次のとおりです。

① 気象・海象の早期把握

台風が通過した後は、天気が良く、風が穏やかでも、沖合から大きなうねりが押し寄せて磯波が高くなります。釣りに行く前に、最新の気象・海象の情報を確認して、荒天や高い波が予想される場合は、釣行を中止しましょう。



② 複数名での行動の励行

海に落ちた場合、一人では助けを呼ぶことも困難です。できる限り複数名で行動するとともに、出かける際は、家族などに行先と予定を伝えましょう。

③ 自己救命策の確保

近場の岸壁釣りでも、海中転落すれば自力で上がるのは困難です。ライフジャケットを着用する

とともに、防水仕様の携帯電話又は防水パックに入れた携帯電話を常時身に付けておきましょう。

ワンポイント講座 事故防止のためのワンポイント講座。『高潮に注意』

東日本大震災を引き起こした地震は、太平洋プレートの移動により東北太平洋沿岸部の地盤沈下をもたらししました。海沿いの地域では、潮が高くなると道路まで冠水する所も出ています。

「高潮」は、台風などの強い低気圧による海面上昇、強風による海水の吹き寄せなどによって海面が異常に高くなる現象で、時には沿岸の施設や家屋などに大きな被害を与えることがあります。着岸している小型船も、岸壁に乗り揚げたり、船尾からアンカーロープを取って船首付けで係留している船ではロープが緊張して船尾が沈み、浸水することがあります。

高潮警報・注意報が出されたときは、係留ロープを調整したり、海面から十分な高さがある岸壁に移動するなどの対策を講じましょう。満潮と重なる時や、地盤が沈下している地域では、特に注意が必要です。



海の言葉 海や船に関する用語について解説します。『ロープワーク』

船に係留する、船の上で物を固定する、故障した船を曳航する等々、船を運航するために「ロープ（索）」はなくてはならないもの。目的に合わせたロープの使用方法や、そのための運用（結ぶ、解く、加工する等）など、ロープの取り扱い全般を「ロープワーク」と言います。船では、ビット（係船柱）などに係留ロープを掛けるためにロープの端をリング状に加工したり（アイズプライス）、切れたロープをつなぎ合わせたり（ショートスプライス）といった作業を甲板部員が行いますが、目的に応じて使い分けるロープの結び方も含め、ロープワークをしっかりと覚えておく必要があります。確実に固定すべきものが、ロープが解けて外れれば大きな事故にもなりかねません。新人の甲板員は、ボースン（甲板長）から、ロープワークを徹底的に叩き込まれるのです。



アイズプライス
(Eye splice)



ショートスプライス
(Short splice)



羅針盤

編集担当者の四方山話的コラムです。『季節の変わり目』



日々の暮らしの中で、季節の変わり目を感じる時があります。

例えば夏から秋への変わり目、鱗雲が浮かぶ空が澄んで高く感じるとき、日が短くなったなあと思いながら外に出た瞬間に涼しげな空気を感じる時（こんなときは、さんまの塩焼きも頭に浮かびます）等々。もちろん、感じ方は人それぞれで違うと思いますが、そんな瞬間を皆さんも感じたことがあるのではないのでしょうか。

先日、台風第18号が中部地方から東北地方を通過し、各地に大雨や強風による被害をもたらしましたが、台風が通過した翌日の宮城県では、大陸からの高気圧に覆われて晴天となり、涼しい風が吹いて湿度も低く、台風が通過する前に比べると、一気に季節が秋に変わったように感じられ、いろいろな意味で台風の持つエネルギーの大きさを実感しました。

10月になると日本に上陸する台風も少なくなります。台風シーズンは終われば、やがて木枯らしが吹き始めます。季節の変化を楽しみつつ、気象の変化にはくれぐれも注意を怠りなく。



大切な命! 自分で守る

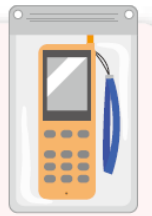
海上保安庁では、大切な命を自分で守るため、そして、一人でも多くの人を救助できるよう、次の3つを基本とする「自己救命策確保」を推進しています。



ライフジャケット
の常時着用



携帯電話などの
連絡手段の
確保



救助要請
は118番

海のもしものは!
118

本紙を印刷物でご覧の方へ

マリレ情報よろず屋をホームページからご覧になる場合は、次のURLから! 「マリレよろず屋」で検索してもヒットします!

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/O2kanku/yorozuya/index.htm>

マリレよろず屋

で

検索

